
【東方】幻想郷Formula1

神楽 奏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【東方】幻想郷Formula1

【Nコード】

N1019X

【作者名】

神楽 奏

【あらすじ】

幻想郷・・・

そこは妖怪が住む「楽園」 忘れられたモノが来る所だがそこに現代で忘れられていないモノの情報が出回る

Formula1 通称：F1

そんな競技にまったく興味を示さなかった博麗 霊夢だったが、今
行われる第6回大会から多額の優勝賞金が出されることになった

そうして霊夢は博麗神社に転がりこんでる居候、伊吹 萃香と共に
F1の道に入ることになった

簡易設定（前書き）

オリジナル作品「ブレイブ・魔術の図書館」と一緒に進めていきますので更新が少し遅いと思います

簡易設定

【設定】

幻想郷F1GP

過去に5回行われている 主人公である霊夢が初参加

コースは河童お手製の实在コース顔負けのサーキット

F1 2011同様全19戦（バーレンが行われなかった為）

1戦目：無縁塚GP

2戦目：魔法の森GP

3戦目：紅魔GP

4戦目：守矢GP

5戦目：妖怪の山GP

6戦目：人間の里GP

7戦目：魔界GP

8戦目：天界GP

9戦目：竜宮GP

10戦目：冥界GP

11戦目：命蓮GP

12戦目：旧地獄GP

13戦目：地霊

14戦目：竹林の森GP

15戦目：月の都GP

16戦目：博麗GP

17戦目：神霊廟GP

18戦目：幻夢GP

19戦目：黄昏GP

過去ワールドチャンピオン、コンストラクターズ

第1回：レミリア・スカーレット（スカーレット ナイト）

スカーレット ナイト

第2回：永江 衣玖（Ryugu）

スカーレット

ナイト

第3回：東風谷 早苗（Formula守矢）

スカーレット

ナイト

第4回：射命丸 文（Sonic Star）

Soni

c Star

第5回：射命丸 文（Sonic Star）

スカー

レット ナイト

【レーシングチーム】全14チーム

・HRT（Hakurei Racing Team）

博麗 霊夢（HAK） 伊吹 萃香（IBU）

・スカーレット ナイト 姓が一緒の為名前上3文字を取る

レミリア・スカーレット（REM） フランドール・スカーレット
（FRA）

・Ryugu

比名奈居 天子（HIN） 永江 衣玖（NAG）

・Sonic Star

射命丸 文（SHA） 犬走 椛（INU）

・Magic Master

霧雨 魔理沙（KIR） アリス・マーガトロイド（MAR）

・西行桜

西行寺 幽々子（SAI） 魂魄 妖夢（KON）

・ハ雲レーシング 姓が一緒の為名前上3文字を取る
八雲 紫(YUK) 八雲 藍(RAN)

・Formula 守矢

東風谷 早苗(KOC) 守矢 諏訪子(MOR)

・アンダーマインド

古明地 こいし(KOM) 火炎猫 燐(KAN)

・Team Myorenji

聖 白蓮(HIJ) 村紗 水蜜(MUR)

・Desire

物部 布都(MON) 蘇我 屠自古(SOG)

・ガーディアンクロイツ

十六夜 咲夜(IZA) 紅 美鈴(HON)

・Fire x Eternal

藤原 妹紅(FUJ) 蓬莱山 輝夜(HOU)

HRT、Desire、Fire x Eternalが今期初参戦

簡易設定（後書き）

次回は9月末～10月初旬 更新予定です

プロローグ

「はぁ？ F1？」

「そ、F1

興味ない？」

この河童は何を言い出すのかと思えば・・・

てか何で私がそんなことしなきゃいけないのよ

いつものように神社を持て余していた巫女の所に河童がやってきた
イヤな予感がしていた霊夢だったが逃げ出すと言ったことはせずに
普通に対応していた

「知らないわけじゃないでしょ？」

「そりゃまあ5回もやってるからね

知らないヤツはいないでしょ？ 地底のヤツらや天界のヤツだって出
てるんだから」

ここ最近幻想郷ではF1という車のレースが流行っている

河童が総出で車の整備や作成などを行っていてサーキットまでつく
りはじめた

たしかにおもしろそうではあるがいまいち気が乗らないのが霊夢で
ある

「そんなこと言わないでさー出ようよ

私がピットクルーになるからさ」

「にとりが？ だってあんた文のとこのチームでしょ？」

レーシングチームのピットクルーはマシンの知識が必要になってく
るのでだいたいは河童がクルーを務めている

河童の中でもとりは最高ランクに部類されるがズバ抜けているわ
けでもないの割とピットクルーは平等のチーム力になる

「ちなみに今回新たに神霊廟のことと妹紅、輝夜のチームが参戦だ
ね」

「神霊廟はともかくあの2人は絶対うまくいかないでしょ」

実は前回大会にも藤原 紅妹と蓬萊山 輝夜は別々のチームで参戦していた
しかし、お互いが故意にクラッシュし合って結果お互いのチームは解散した

2人とも資質があつたため惜しがられたためお互いのチームのもう1人のドライバーであつた八意 永琳と上白沢 慧音が2人を組ませるように仕向けた

「まあ、狙いとしては負けん気が強い2人を同じチームにさせてもしケンカすれば自分のチームが負けるからって感じかなあ」

うまくいくとはとても思えないが・・・

「何でもいいけど私は出ないわよ」

「そんなあ、せっかくチーム名も考えたのにー」

「はあ？ちよつと勝手に決めないでよ」

「いいじゃん別にー」

この河童は・・・

「んでそのチーム名って？」

仕方なさ気に霊夢はにとり聞いた

「HRT 博例レーシングチームの略だよ

向こつの世界のF1にもHRTってチームがあるんだって
もつとも正式名称は違うけどね」

「んで、そのチームって強いの？」

それを聞くとなぜかにとりは目をそらした

「まさか・・・弱いのか？」

にとりは冷や汗をかきながら

「3弱って呼ばれるくらい弱いらしいよ・・・」

と答えた

「話にならないわね」

霊夢の興味がそれってしまった

「ま、待つてよ！別に向こつのが弱いだけでこつちは強くなればいいじゃん

それに今回から優勝すれば賞金が出るよ！」

霊夢はピクツと動いたあと静かに震えだした
にとりの計画通りである

金話をすれば絶対に食いついてくると思った

最初からその話をすればよかったがメカニックとしての自分はやはり、車に興味を持ってほしかったのである
だからこれは最終手段だった

「わかったは・・・」

「え？」

「そのF1に出てやろうじゃないの!!!」

こうして霊夢はF1への道を進み始めた

パートナーは魔理沙がすでに出ていたため近くにいた萃香を無理矢理引っ張った

ブログ（後書き）

次回は10月中旬までに更新予定です
HRTファンのみなさんすいません

1 戦目：無縁塚GP (1) HRTのマシン(前書き)

誤字に関しては後日変換いたします

1 戦目：無縁塚GP (1) HRTのマシン

「それでさあ、マシンってどういう感じにする？」

「速いの」

にとりが目を輝かせながら聞いた質問は無残にも素人の一言によって一蹴された

ガツカリするにとりをしり目に霊夢はお茶を萃香は酒を飲んでいる
「だいたいねえ、私たちにそんな車のことなんか聞かれてもわかるわけないじゃない」

半ギレ気味に霊夢は答える

「だからってなんかもつとあるじゃない

『直線が速い』のとか『コーナーがスムーズに行く』とかさあ」

「じゃあ直線が速くてコーナーがスムーズにいく車にして」

「だからあ・・・」

こうして試行錯誤(？)の末にHRTのマシンが完成した。

「じゃーん！できたよー！！！！」

「おお！！」

色は紅と白に萃香の角と霊夢のリボンのシルエットがマークになっている

「車体は少し低めにしてシートも少し低めにしてるよ

萃香のはシートが少し高いけどね」

そのあとにとりは専門的な話をするが2人についていけるわけもなくすべてスルーされていった

それでもにとりが「ドライバーには絶対に必要」だと言われると少しは聞く耳を持つようになった

とりあえず操作方法、現在の幻想郷F1のルール、タイヤの摩耗・種類、燃料、DRS、K・E・R・Sなどが説明された

「とりあえずこれだけ最低限覚えてくれたらいいよ今は

あ、あと一応私のチームがP I Tクルーに入る予定で私は無線飛ばす役だから」

「無線なんて運転中に飛ばされたら邪魔でしょ・・・」

「そんなことないよ」

だってまだ霊夢たちは初心者なんだからタイヤの交換に來いとかペナルティを受けたからP I Tレーンを通過しろとかレースに関することを言わなきゃいけないんだよ」

それもそうか・・・と霊夢は納得した

萃香にいたっては理解しているのか理解していないのかわからないがとりあえず納得してみせた

「じゃあとりあえず練習してみようか」

練習はルールでG Pが始まる前にしかできないんだ」

「プラクティス？っていうのがあるんでしょ？だったらその時でいいんじゃないの？」

いかにも今やるのがめんどくさそうである

「マシンにまだ全然乗ってない状態でやっても他のチームに迷惑がかかっちゃうよ」

ピキッ

霊夢の中で何か音を立ててちぎれた

そのオーラを感じとったのかにとりが少し震え始める

「上等じゃないの・・・プラクティスまでに全員よりうまくなってみせるわよ！！！！」

こうして霊夢と萃香の練習が始まった

霊夢はともかく意外だったのが萃香の上達であった

「すごいね萃香」

萃香らしい力強い運転だね

コーナーワークとかもかなり攻めてるし」

「どんなもんよ！霊夢とは違うのだよ霊夢とは！！！！」

「あんた今日晩御飯とお酒抜きね」

「すいません！ごめんなさい！！！」

全力で土下座をする萃香の横で

「でも霊夢も安定したドライビングだね

ミスがほとんどないしいい運転だよ」

萃香の運転はほぼベタ踏みのタイヤに非常に優しくない運転である
タイヤが摩耗すればタイムは落ちるしまたP I Tに入る回数が多くなるので必然的に順位が落ちてくる（あくまで一般論ではである）
しかしタイムトリアルである予選ではかなり前の位置からスタートできそうだと

対する霊夢は豪快さこそないが非常に安定した運転である

もう少し思いつきりが良ければ予選でもいい位置でスタートできそうだが、その思いつきのよさが霊夢にはない
だがタイヤの使い方は絶妙である

コースによつては1 P I Tでもあまりタイムが変わらずにレースができるかもしれない

「うんだいたいよくなってきたね

じゃあこれから1ヶ月ほぼ毎日練習していくよ」

「ええ！？毎日！？」

明らかにイヤそうである

「そうだよ

じゃないとレミリアや文といった強豪勢には勝てないんだよ？」

チームとしては現在4強、ドライバーは6強と言われている

チームではこれまで4度のコンストラクターズチャンピオンに輝いているスカーレット・ナイトを始め、唯一スカーレット・ナイトにコンストラクターズで勝利したS o n i c S t a r、F o r m u l a 守矢、そしてM a g i c M a s t e rである

今年R y u g u に第3回を最後に引退した永江 衣玖が復帰することが決まっているためこちらもちェックされている

ドライバーでは唯一複数回優勝と連覇を成し遂げている射命丸 文

を筆頭に第1回優勝のレミリア・スカーレット、第3回優勝の東風谷 早苗、フランドール・スカーレット、霧雨 魔理沙、そして今年リニョールチームとして参戦する藤原 妹紅である

妹紅は元々レース感覚が抜群でGPも何度か優勝しているが、感じなどところで輝夜の介入にあいワールドチャンピオンを逃している魔理沙も高速セクションは得意だが低速セクションは恐ろしく苦手という難点を抱えているためコースによっては入賞すらできないこともざらである

さらに、復帰した永江 衣玖の登場により今回は今まで以上の混戦が予想されている

「と、まあ現状はこんな感じかな

とにかく今挙げた7人は本当に速いよ」

萃香は相変わらずのお気楽さで聞いていたが霊夢は神妙な面持ちで聞いていた

ともかくレースに勝たなければ賞金は手に入らない

それでも霊夢には今回の練習でやってきた自信があるし萃香とも話し合ってコースの攻め方などを教え合ったりしている

そういつたことが霊夢の自信をなっていた

「まあ、いいわ・・・やってやろうじゃないの！

最後に笑うのは私たちよ！」

「そうだ！そうだ！

賞金があれば毎日うまい酒が呑めるしな！」

しかし、このときにとりは迷っていた

この自信に満ちた2人にそれを言うべきなのかを

答えは無縁塚GPの予選前日プラクティスで出る形となった・・・

1 戦目：無縁塚GP (1) HRTのマシン(後書き)

PIT回数が多ければ順位が落ちると書きましたがあくまで普通だったらの話です

今年(2011)のカナダGPのジェイソン・バトン(マクラーレン)はすごかったですね。まさか6PITで優勝するとは・・・
今年のバトンは終盤の追い上げがすごいと思います。シンガポールも気が付けばベッテルのすぐ後ろでチェッカー受けてましたからね

今回はすぐに取り掛かるので今日中旬までにはアップします

1 戦目：無縁塚GP (2) 力の差、フリー走行 (前書き)

やっと今回からレースに入ります

と言ってもまだコースを走ってマシンをセッティングする段階ですが

1戦目：無縁塚GP（2）力の差、フリー走行

無縁塚GP、初日

幻想郷にあるサーキットのほとんどは現実世界にあるサーキットと同型のモノが組まれている

理由としてはいくら河童と言ってもサーキットの対する知識が無かったためF1の情報が幻想郷に流れ着いた時に同じく流れ着いた資料を参考にコースを作るしかなかったのである

今回行われる無縁塚のサーキットは現代のアルバート・パーク、オーストラリアGPで使われるサーキットに酷似している

コース距離は5.400kmと同サーキットより少し長い
コーナー数は16

高速サーキットであり、地面はやや滑りやすい

またオーバーテイクポイント（追い越し地点）も少ない上に1コーナー、3コーナー、9コーナーではスピードが乗るがすぐに低速コーナーに入ってしまう厄介な面もある

また最終コーナー前のコーナーは入口が広いがコーナー途中、出口が狭くなっているためここでミスする者も多い

ファステストは永江 衣玖（Ryugu）、前回優勝は東風谷 早苗（Formula守矢）となっている

「まずは予選の前日走行だよ」

今日は2回に分けて丸一日練習に使うよ」

実際始めてコースに立つ霊夢と萃香は珍しく緊張していた

自分がやる初めてのカートレースとあってか霊夢は神妙な面持ちでコースを、萃香は口を少し開けてスタンド席を見ていた

「改めて説明するけど、今日はフリー走行と言ってマシンのセッテ

イングが実際にコースに合ってるかを試すんだ

微妙な調整だけは実際にコースを走ってみないとわからないからね」

にとりが説明を始めると2人は慌ててにとりの方を向く

「まず、今日のフリー走行は80分を計2回に分けて行っよ

この80分の内何分走れとかいう制限はないから安心して

走ってない間は車のチューニングとか相手チームのタイムとかを見るんだ」

さらににとりは説明を続ける

「そして明日が予選前の最終フリー走行を60分

少し間を空けて予選に入る」

ホワイトボードにタイム欄が書かれておりにとりが説明、霊夢と萃香はそれを聞き、他のPIEスタッフである河童達はその間も車のチューニングなどをしている

「予選ではQ1、Q2、Q3に分かれていてこれでノックアウト方式のタイムトライアルでスタートポジションを決めていくんだ

まずはQ1では走行時間20分で17位までがQ2に進出して、

18位、28位はそのまま順位に応じたポジションになる

次にQ2では走行時間15分で10位までがQ3に進出、11位

、17位まではその順位のポジションに、最後にQ3では走行時間10分でその順位の結果のポジションになって翌日の決勝を戦うんだ」

これが現在のF1の予選ルールである(2011年現在のF1の台数は26台であり、Q1は18位、26位までが脱落である)

また、にとりのマシンの細かい説明とコースの説明を始めた

そうこうしているうちにまもなく1回目のフリー走行が始まろうとしていた

霊夢と萃香は車に乗り込みヘルメットかぶった

霊夢のヘルメットは車体に合わせた紅白ヘルメット、萃香は角があるの後ろが開く開閉タイプになっており頭部は角が出るように

する穴が開いている

「始めに言っておくけど多分始まっても他の強豪チームは様子見をするだけだと思うよ

霊夢たちは初心者だから気にせず時間いっぱいを使ってコースに慣れてもらう」

「ということは今回から出てくる神霊廟のどこくらいってこと？」

「いや、前回から参加してるTeam Myourenjiももしかしたら走るかもしれない

Fire x Eternalは今まで参加してきた両名だから軽く流す程度かな」

その時フリー走行開始が告げられた

「じゃあ最初に萃香が出よう

F1において最もくだらないのはチーム同士での接触だからね
霊夢はしばらくコースについての説明をするよ」

「おう！わかった」

クルーが萃香を送り出してにとりは霊夢にアドバイスを送ることにした

―スカーレット ナイト車庫―

スカーレット ナイトはクルーが河童では無く紅魔館に属するメイド妖精でまかなわれている

理由としては、幻想郷F1のルールとして河童が同じチームに属せる期間は大会が3回までと定められているからである

もしも優秀なスタッフを手放してしまった時の代償が大きいので紅魔館サイドでは初期から河童と共にメイド妖精をチーム内に混ぜ込み河童の技術を盗まさせたのである

ちなみに現在専用のスタッフを持っているのはスカーレット ナイトとガーディアンクロイツのメイド妖精、Sonic Starの

天狗、アンダーマインドのゾンビフェアリー、Firex Eternalの兎となっている

「ふふっ…まさか今年は霊夢が参戦するなんてね

よほど優勝賞金が気になるのかしら？」

マシンにも乗らずレミリア・スカーレットは車庫内で優雅に紅茶を飲んでいた

しかし、いつもお世話をしている咲夜は下部組織であるガーディアンクロイツにいるため姿は見せていない

そのことにだけ不満を覚えながらも横にいるパチュリーに話かけた
「ねえ、パチエ

今回はどう思う？」

意味ありげな笑みでパチュリーは

「今回色んな意味でおもしろくなりそうね

とくにフランなんかはそうじゃないかしら？」

そう言っただけでいた書物から目を上げ向けた視線の先にはフランが早く走りたげにしていた

一方のレミリアは画面に映っている萃香の運転を見ていた

力のあるドライビング…しかしまだフランには勝てないと悟った

しかし、レミリアにとって萃香はそれほど注意すべきレーサーでも無かった

問題なのは霊夢である

何をやってもセンスがある者だけにおそらくF1でも力は出してくるであろう

しかし…

「序盤では無理ね

霊夢はまだバトルを知らないんですもの」

とりあえず今日は全体の様子見なのでフランをなだめることにした

初めて走るコースに違和感を覚えながらも霊夢はスムーズに走り抜けていった

にとりから「タイムは気にするな」と言われているがやはり気になる
萃香にはセクタータイムが無線で言われているが霊夢には伝えられ
ないようにしている

萃香の場合は恐ろしく自分のペースで走ることができのに対して
霊夢はタイムが遅くなると安定した走りが無くなり余計にタイムを
縮めることになったのである

そのためにとりはあえて霊夢にはタイムを告げないようにした
これに対して霊夢はどこかもしさを覚えているが慣れないコー
スな上に路面が練習してきた博麗のサーキットとは違って少し滑る
ので余計な考えは途端に止まった

「ふう……」

車庫に戻り霊夢は深く溜息をついた

最初のフリー走行が終了して走った台数はわずか8台だけであつた
しかし、霊夢はこの結果を見て絶句する

1位：古明地 こいし	(アンダーマインド)	1：29：796
2位：紅 美鈴	(ガーディアンクロイツ)	1：29：831
3位：聖 白蓮	(Team Mourenjii)	1：
29：985		
4位：村紗 水蜜	(Team Myourenji)	1：
30：365		
5位：博麗 霊夢	(HRT)	1：32：473
6位：物部 布都	(Desire)	1：32：7
61		
7位：伊吹 萃香	(HRT)	1：33：609
8位：蘇我 屠自古	(Desire)	1：33：
786		

(何よこれ……)

実はにとりから予選は全開ではなく70%程度で走るように言われていた

しかし、負けず嫌いの霊夢はこの忠告を無視してほぼ全開で走っていた

それでもこの結果だっただけに霊夢は悔しかった
そこにとりが

「まあ、全員全然本気を出してなかったね
本気だったらこいしとかだったら25秒台は固いでしょ」

と言ったのでますます落ち込む結果になった

霊夢が1人でうつむいていると上から

「わかった？これが今の霊夢の実力なんだよ？」

と容赦ない一言が突き刺さった

「あんた…わかってたのね…こういう結果になることを…」

「もちろん、霊夢が私の忠告を無視して全開ドライブすることもある」

そんなことまで見抜かれていた

当然である

いつも自分たちの走りを見てくれていたのは他でもないにとりであった

「まったく、萃香は素直に聞き入れて全開で走らなかったのにそれでも全開で走った霊夢と1秒くらいしか変わってないんだよ？」

萃香なら27秒には乗せれるかな」

「もういい！」

途端に霊夢が叫んだ

車庫内にいた全員が驚いて霊夢を見た

ただ1人除いては…

「それでどうするの？ここで止める？まさか最初から優勝できるなんて思っていないよね？」

にとりが皮肉いっぱいに放った一言に霊夢は声を荒らげて叫んだ
「当たり前じゃない！あんだけ期待させるようなこと言っておいてレースに出たらこんな惨めな結果になるなんて思わないでしょ！」

怒りよりも悔しさからくるのか霊夢の目には涙が見えた

「人…期待させておいて…何よそれ…」

「はあ…まずはね霊夢、私は7戦までに入賞できたらいい方だと思
ってた

だってマシンのことなんてまだ全然知らないのにそれ5回も戦っ
てきたヤツらに勝てるわけないよ」

にとりは呆れた顔で霊夢を見た

何も言い返さない霊夢をかわいそうと思えてきた霊夢ににとりは霊
夢が遅かった種明しをすることにした

「霊夢…実は車に細工した」

その言葉に霊夢はピクツとなった

「…え？」

1 戦目：無縁塚GP (2) 力の差、フリー走行 (後書き)

コースの説明は私がゲームでやった時の感覚です
実際と異なる点があります

ちなみに私が好きなサーキットはアルバート・パーク・サーキット
(オーストラリアGP)、鈴鹿サーキット(日本GP)、ヤス・マ
リーナ・サーキット(アブダビGP)です

嫌いなコースはセバン(マレーシアGP)、イスタンブルグ・パーク
(トルコGP)、上海インターナショナルサーキット(中国GP)
、韓国インターナショナルサーキット(韓国)です。走りにくいだ
もん

1 戦目：無縁塚GP (3) マシンは相棒、フリー走行／予選 (前書き)

はてさて今回からは運転中の感情とか表現にも少しは挑戦していきたいと思います

今回は前日フリー走行と予選です

文が途中の状態であげました 続きはまた書きます (終わり次第この文は消します)

1戦目：無縁塚GP (3)マシンは相棒フリー走行/予選

フリー走行3回目

この日も天気はいつも通り曇っていた

しかし、この地域において雨はそんなに降らないので思いつきり滑るということはない

そんな曇天模様のような表情をして霊夢は自分のマシンを見つめていた

結局昨日はあれからにとりと話しをして2回目のフリー走行は走れなかった

2回目のフリー走行で萃香は18人中10位の結果だった

それでもにとりからすれば調整は順調に行ってるらしい

霊夢は昨日言われたこと思い出していた

昨日

「車に細工ってどういうこと？」

怒りの形相をした霊夢が問い詰めた

周りのPIESTスタッフが霊夢の方を見たがまもなく2回目のフリー走行の時間が近づいていたため、マシンの整備に取り掛かった

「どういうこともないよ、霊夢なら気づくかなあって思ったんだけどね」

お気楽な口調のにとりに霊夢はイラ立ちを隠せないでいた

「ちよつとあな…」

怒りの言葉を投げかけようとしたが

「霊夢のマシンに仕掛けた細工は3つ、まずはタイヤ…これはずっと練習で使ってたすり減ったハードタイヤを使ってたんだ」

と、説明にさえぎられた

続けにとりは説明を始めた

「ただ滑りするからもちろんタイムなんて出ないしましてやハード側だからね、こんなのではさすがの文でもタイム出すのは無理だね
2つ目はDRS（可変リアウイング）の封印

知つての通りこれを使うことによってタイムが1秒は縮むといわれてるね」

霊夢は反論するのをやめた

というよりは納得いかないことがあったら反論する気ではいるが今のところはその理由を聞くことに徹していた

「3つ目はK・E・R・S（運動エネルギー回生システム）も使えないようにした

当然加速力、直線力が落ちてくるね

これだけそろってればパワーが出ないのは当たり前だよ」

呆れ顔のにとりにイラつきながらも黙ってその意図をつかもうと必死だった

いったい何が目的なのかがまったくわからなかった

「さて、霊夢にこれかやってほしいことはマシンとの絆を深めてほしいんだ」

意味がわからなかった

霊夢にとってマシンは勝つためのモノ、勝ってお金を貯めるモノだった

その心を見抜いてかにとりは

「霊夢はマシンをお金稼ぎの道具としてしか見てないからマシンの状態に気付けなかったんだよ

萃香なんかはエンジンつけてステアリング握っただけでわかったのにね」

あの萃香が？

霊夢は一瞬疑った

「そこが霊夢と萃香の違いだよ

萃香はマシンを信賴してマシンに答えようと必死だよ

少なくとも現在の霊夢よりは絶対に速いだろうね」

「じゃあ萃香と勝負してあげるからマシンをちゃんとセッティングしなさいよ」

にとりの発言にキレた霊夢が喰ってかかった

「わかったよ」

じゃあどういうセッティングにしてほしい？

ちなみにちゃんとしたセッティングを言えないとセッティングしないよ？」

これにはマシンは道具としか思っていない霊夢には無理な話だった以前にとりからはマシンについて勉強しておくようにと言われていたがそんなものはほっておいていかに速く走るか、いかにコーナーを攻めるかしか考えていなかった

「はあ…萃香はマシンについての勉強もちゃんとしてたのに…霊夢は何もしていないんだね」

「勉強はしてたわよ」

いかに速く走るか」

「そんなことしか考えてないようじゃ絶対に勝てないね」

マシンのセッティングは私たちにしかできないけどどうやったら速いマシンになるのかはそのドライバーにしかできないんだから」
にとりの言い分にグサツと来た

自分に合わせられるマシンは自分にしか作れない

しかし、マシンのことも知らないでそんなことはできるわけがない
そう思ってる内に萃香が帰ってきた

「お帰り萃香」

どう感触は？」

「悪くないかな」

ただちよつとコーナーでフロントのバランスが崩れるかなあ…」

霊夢はギョツとしてた

言っただけだが萃香は鬼のため正直頭がよく無いと思っていた
しかし、今見てみるとにとりと同等の会話をしているように見える

このままではダメなんだろうか
そう考えてる内に予選の日になってしまった

（フリー走行3回目）

結局昨日萃香は1：30：762というタイムを出した
1回目より3秒近くもタイムを縮めてきたことに驚いた
もちろん萃香自身が上手くなったのもあるだろうが萃香のマシンを
見た時少しの違和感に気付いた

（車体が低い？それにウイングが少し変わってる…）

最初は自分のマシンと同じだったのに外観が全然違っていた
いまだに自分のマシンを目に呆けている霊夢にとりが近づいてきた
「霊夢、マシンの内部スペックはセッティングしたからあとは実際に
乗って自分の考えてね

今日は予選前最後のフリー走行だから思う存分走ってきてね」
無気力なままマシンに乗ってステアリングを握った霊夢は少し違和
感があった

（あれ？何だろう…中身が変わってるからかなあ…）

それでもにとりから合図が出たのでコースに出た
相変わらずセッションタイムは告げられないが霊夢さしあたって気
にしないことにした

それよりも気になっているのがよくわからない違和感である
スタートラップに入り全力でアタックしたコーナーで初めて違和感
がわかった

「シフトチェンジがもたついてる？それに全体のバランスが悪い」
タイムを気にすることよりもまずマシンを知ろうとした
乗った時の違和感、コーナーの曲がり具合、ストレートの加速、自
分が考えれるだけで違和感がありそうな場所を探した
クランクに差し掛かったところにはアンダーが出そうになったがなん
とか回避できた

あまりに走りにくいのでにとりに無線を飛ばした

「にとり、萃香をコースに出して

私は一度P I Tに戻るわ」

すると無線の向こうから少し驚いた声で

「え？何かあったの？タイム自体はすごくいい調子だよ？」

と返ってきた

（タイムはいいんだ）

しかし、マシンに違和感を感じる今マシンをあと2周もさせるわけにはいかないと霊夢は直感的に察した

しばらくして霊夢はP I Tに戻った

隣を見ると萃香のマシンが無かったのでどうやら出してくれたらしい

「どうしたの霊夢？何かあった？」

「にとり、また私のマシンに何か仕込んだ？」

昨日やられてるだけにそこはやはり懸念せざるを得なかった

また試されてるんじゃないかと思ってしまっていた

しかし答えは予想に反したモノだった

「いや？何も細工はしてないよ

昨日ので反省してくれたみたいだから普通にセッティング戻したただだよ？」

この答えに霊夢は自分の違和感が正しいと思える自信が無くなった
アンダーを出したのも自分の腕が悪かったからじゃないかと思えてきた

「何かシフトチェンジがもたつくし、マシン全体のバランスが悪い気がするわ」

「え？ちよつと見てみるね」

そういうとギアボックスは見てにとりは驚いた

「あ、本当だ

このセッティングじゃこのサーキットに合っていないや
よく気づいたね霊夢」

そう言われるとなぜだかテレてきた

続く

1戦目：無縁塚GP (3)マシンは相棒、フリー走行/予選、(後書き)

日本GPが終わりましたね 小林可夢偉は7番グリッドからスタートしたものの決勝は13番手でした

PITが今年は合いませんね 個人的にはロータス辺りで心機一転やってほしいと思ってます

バトンが優勝して、ベッテルがワールドチャンピオンを決めた非常に熱いレースになりましたね バトンが最後ウイニングランをベッテルに譲ってましたね(本人はホームストレートを自らの足で走ってましたwww

今回は私の好きなドライバーでも

小林可夢偉はもちろん好きです もしTOYOTAが残留してたら…と思います

可夢偉以外では自分でもよくわかってませんがニコ・ロズベルグが好きです

なんでだろう…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1019x/>

【東方】幻想郷Formula1

2011年11月14日22時48分発行